

デュック[®]配合ゲル を処方された患者さんへ

ご使用の際にお読みください

病院・医院名



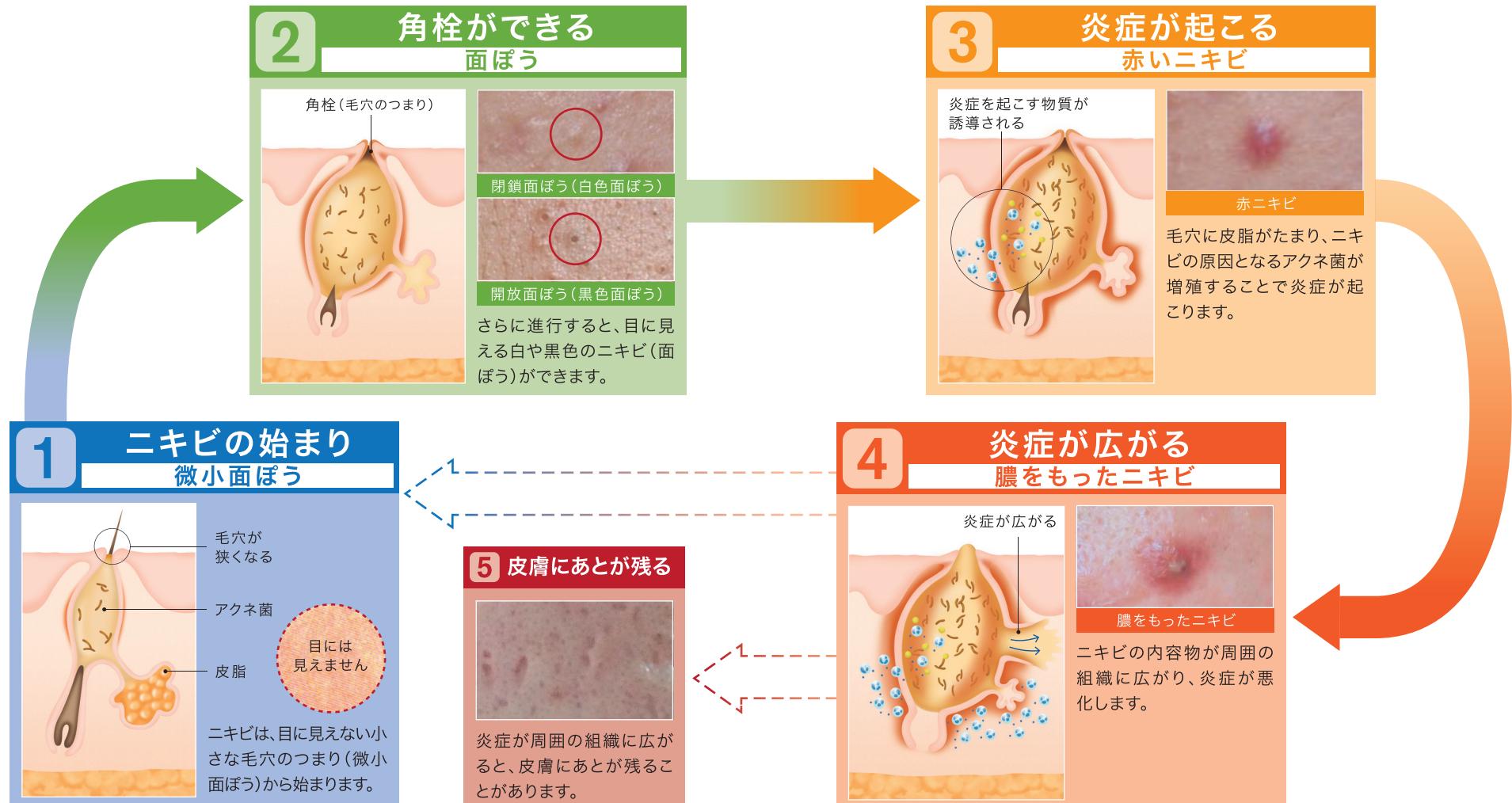
監修:虎の門病院皮膚科 部長 林伸和 先生

サンファーマ株式会社

ニキビの症状と原因

ニキビの進行

ニキビは症状が進行するにつれて、毛穴に炎症が起ります。早い段階から適切に治療することで、炎症を長引かせないことが重要です。



ニキビに対するデュアック配合ゲル の作用

デュアック配合ゲルの作用

デュアック配合ゲルは、

- 過酸化ベンゾイル(酸化剤)と
 - クリンダマイシン(外用抗菌薬)
- の合剤です。



2つの成分の作用



厚くなった角質をはがし、
毛穴に詰まった角栓を取り除きます



増殖したアクネ菌を減らし、
炎症が起こるのを防ぎます



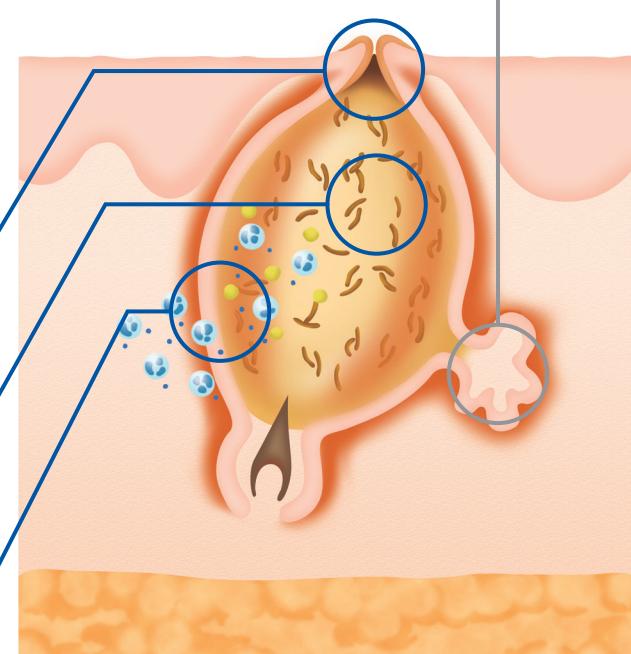
炎症の原因となる物質の発生を抑え、
炎症の悪化と化膿を防ぎます

デュアック配合ゲルは、ニキビを
発生させる4つのしくみのうち
3つに働きかけて症状を改善します。

ニキビを発生させる4つのしくみ

皮脂の分泌増加

- ▶▶▶ 角栓
(毛穴のつまり)
- ▶▶▶ アクネ菌の増殖
- ▶▶▶ 炎症が進み、
化膿する



古川福実, 変貌する痤瘡マネジメント. 皮膚科臨床アセット8. 初版, 古江増隆(総編集), 林伸和(専門編集), 中山書店, 2012, 78-82
赤松浩彦, 皮膚科診療最前線シリーズ にきび最前線. 第1版, 宮地良樹, メディカルレビュー, 2006, 40-43より作図

ニキビ治療によく使われるその他のお薬

- | | |
|--------------|---------|
| □ 外用レチノイド | □ 漢方薬 |
| □ 抗菌薬(外用・内服) | □ ビタミン剤 |
| | など |

デュアック配合ゲルの使い方

デュアック配合ゲルは、
下記の手順で使用してください。

- ①洗顔料を使って、顔全体をやさしく洗います。
洗顔後は、柔かいタオルで水分をふき取ってください。
- ②1日1回、適量*を、
ニキビとその周辺に、広げるように塗ります。



人差し指の第1関節の長さが、顔の半分に塗る量に相当します(約0.3g)。

髪の毛や布製品を退色させる可能性があります。髪の毛や眉毛、衣類などの布製品、絨毯、家具などに付着しないように注意してください。塗り終わった手でこれらに触らないよう、使用後には必ず手を洗ってください。



冷蔵庫(2~8°C)に保管してください。

※凍らせないでください。



〈お薬を塗る際の注意事項〉

- ・塗る回数が多くなりたり、一緒に塗るお薬の種類によっては、刺激が増す可能性があります。
- ・全身性の過敏反応や皮膚に強い刺激があらわれた場合は、使用を中止してください。

分からないことがある場合は、
医師・薬剤師にご相談ください。

皮膚にみられる主な副作用

デュアック配合ゲルをご使用中には、塗った部位に副作用があらわれることがあります。
次のような症状があらわれたら、医師・薬剤師にご相談ください。

主な副作用(皮膚にみられる症状)

- 乾燥
- 接触皮膚炎 (かゆみ、かぶれ)
こうはん
- 紅斑 (赤くなる)
ひふはくだつ
- 皮膚剥脱 (皮膚がカサカサになりフケのようなものが落ちる)
ようしょう
- そう痒症 (かゆみ)



皮膚にみられる主な副作用は、デュアック配合ゲルの塗りはじめにあらわれることが多くありますので、
使用開始から **数週間** は特に注意してください。

皮膚刺激を少なくするためのポイント

- 皮膚が乾燥したり、赤くなった場合には、保湿剤を使用することをおすすめします。
- 日光や日焼けランプなどで長い時間、紫外線に当たることは避けてください。



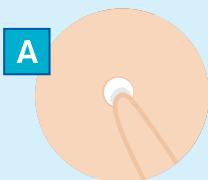
他にも気になる症状がある場合は、
医師・薬剤師にご相談ください。

本日処方されたお薬

■ お薬の塗り方や部位を確認しましょう。



【外用薬の塗り方】



□炎症を起こしたニキビに塗る



□ニキビとその周辺に広げて塗る

■ お薬の使い方を確認しましょう。

外用薬 (名前を書く)

デュアック配合ゲル

A B

A B

A B

塗り方 (A／Bに☑を付ける)

A B

A B

A B

塗る順番(番号をふる)

朝 ☀ 夜 🌙

塗り方は、10ページの
【外用薬の塗り方】A B
を参考にしてください。

その他の指示

■ 通院のめやす

通院日	次回の予定	メモ
月 日()	月 日()	
月 日()	月 日()	
月 日()	月 日()	

- ニキビは治療を続けることで、症状が改善していきますので、治療期間は医師の指示に従いましょう。
- 個人の判断で治療を中断せず、気になることがある場合には、医師・薬剤師にご相談ください。